

豊原國周画



三編下



三編上



明良二葉抄

万亭應賀著

沢村板





万亭應賀著

明良二葉抄

三編 上

沢村板



J6902586

上野之景

春の天

赤い花

白蓮

花よもさふ

上野

思ひし



明良双葉州三編

上の巻

- 御堂河より國千代君へ毎夜御夜食を賜り御部屋夜々賑ふ事
- 諸臣國千代君へのみ御伽よ出て竹千代君の御部屋衰微する事
- 春日局乃心中し誠忠憤發する事
- 永井日向守竹千代君の上意を兄信濃守へ申達する事
- 竹千代君局の胸中秘召出く心勞るゝ事

下の巻

- 井上主計頭大御所の御教解を再び二代君へ言上する事
- 太田某五百石の折紙を二代君の御前へ投捨し物語り
- 鈴木久三郎乱業を以て君を諫言せし物語り
- 永井日向守竹千代君へ上意の御返答を申上る事
- 春日局御部屋の女中の心腹をたぬし見る事

万亭應賀著

永井日向守直清

此臣ハ信濃守尚政の
 舍弟よ奉公よ私
 多く無二の誠忠
 るる久信義ふ
 あつれ袈裟
 御前の貞死と
 感ト鳥羽へ礮と
 建らまゝあり
 追善あり



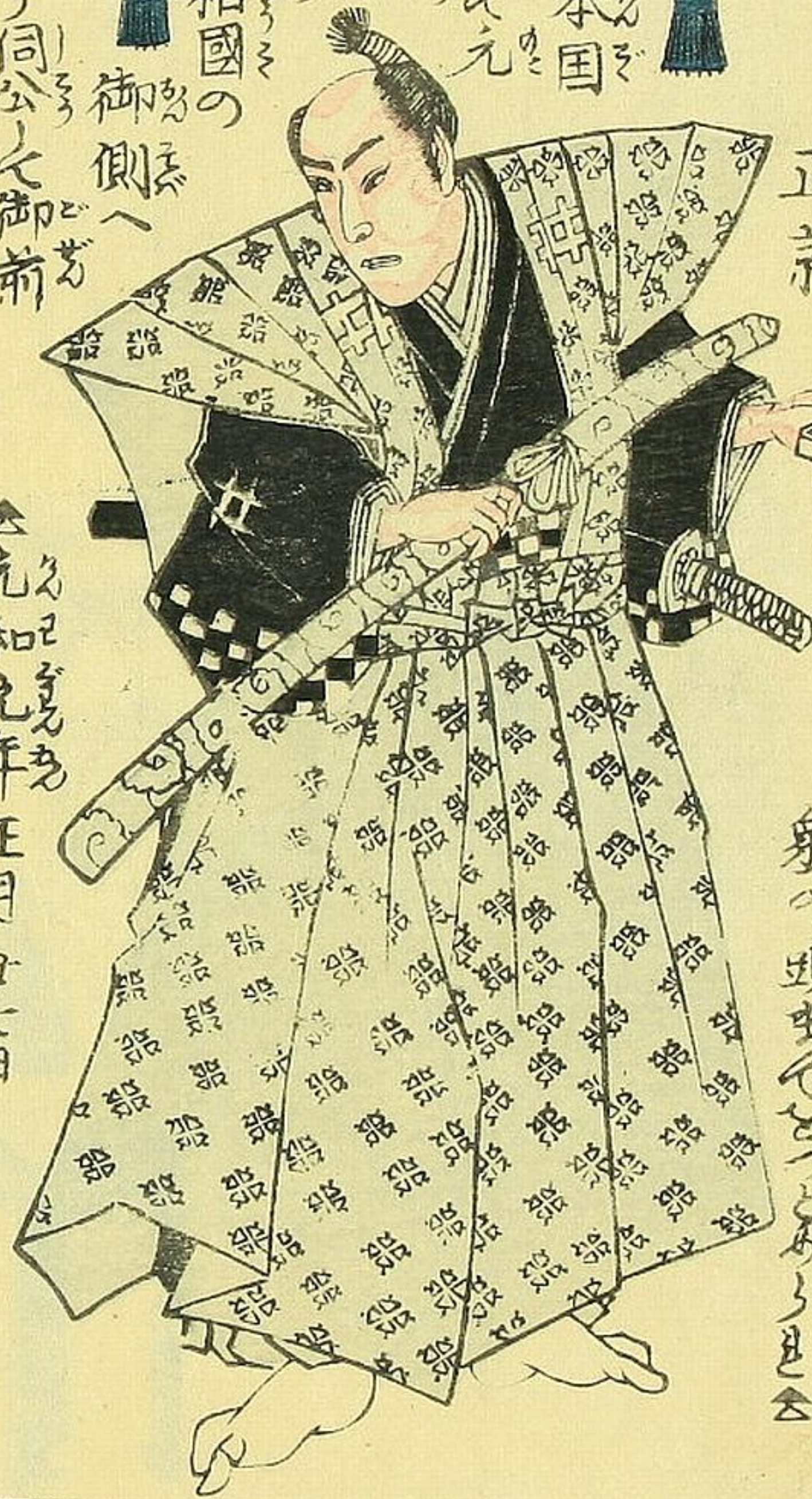
永井信濃守尚政

當家基ハ大江の直勝
 あり神君の台命よ
 くらや大江と永井
 改らる勤功多く
 あるふよつて四品よ
 叙せらる兄弟心と
 合せて京都と
 守護せらる



井上主計頭

正就



兼て御小性組番頭小十人歩行
衆の頭をせしめしむる也

此臣ハ本国

三河

半九郎

大相國の

御側へ

幼雅より伺ふて御前

向より御納戸頭と

元和九年正月廿七日

叙爵せられて主計頭ありし

本多上野次正純

此臣ハ佐渡守正信の嫡男

誠直るとバ

大御所の執事として

駿府より父ハ

関東の執事として

父子東西

ころも権を執る

名家あり



三編上

是且人のあつたを偷控
 候はざるにぞとまひ
 人をせしむるにぞとまひ
 人ふせのせらむとあり
 古の竹千代君の
 御乳母春日局の御軍
 家よりえまよのえの
 味ゆめく若君の
 御乳母ありとまよ
 さらふるあんのろ
 めえも
 あくちん
 まぎりのの由
 御乳母のの由
 うむとらひひまがら
 こゝろとちほ極への
 ちりうあうのま下由
 ちりうまひひるのち
 御乳母よりあはれ

二葉三上



▲お玉極へのあはれ念と
 あんせうはるまがらとまひ
 へま十の二ま
 こゝろとちほ極への
 お乳母のあはれ念と
 御乳母のあはれ念と
 のま出なる
 更につたへ



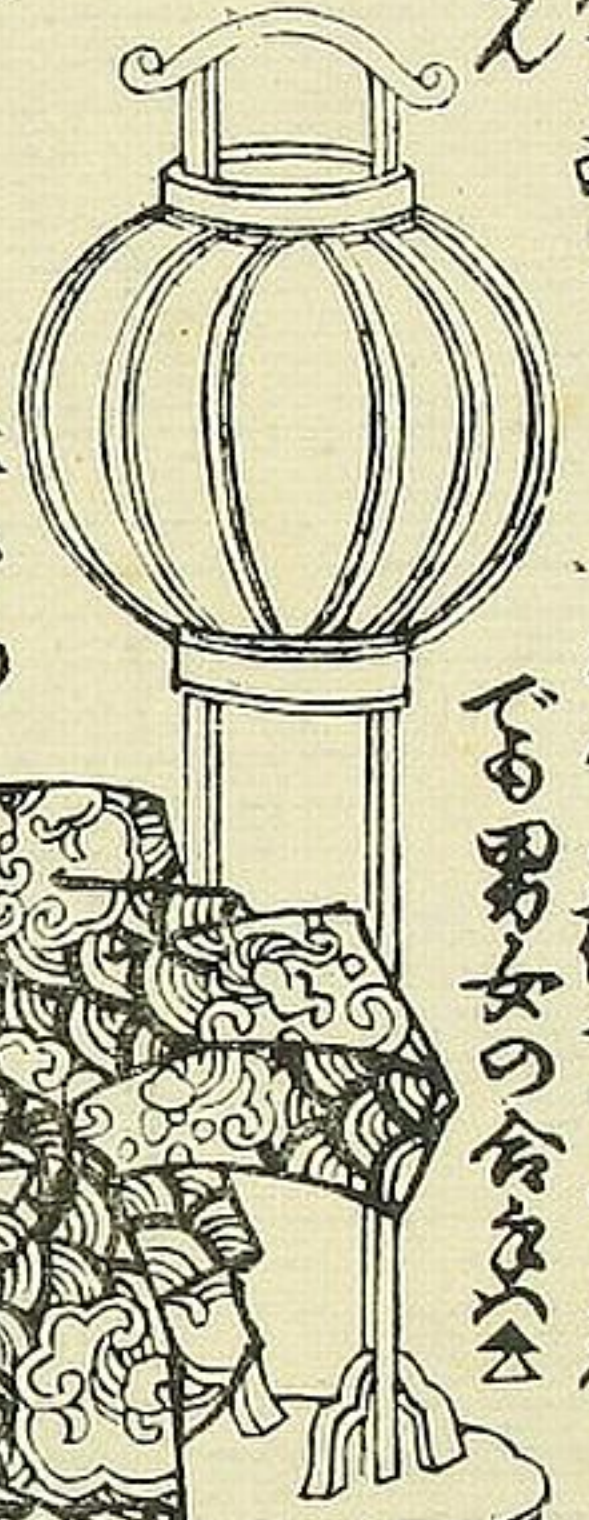
二葉三上

まきる
 正恒の刀
 是れ春日局夫の
 家あり時此刀
 と以て盗賊と討
 ち大勢方の残黨
 と追拂ひる名
 刀あり今淀の城
 主あり一稻葉家
 の所蔵とありて
 在りといふ



三

つぎ ぬきぞい身のり
まひたふかしくならぬ
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり



今より天が十
一本道の君竹の
は身とありて年代を
とぐくは標ふは發明
とあふりあふれも
これまてあふれ者
あつこの世のちらぬ

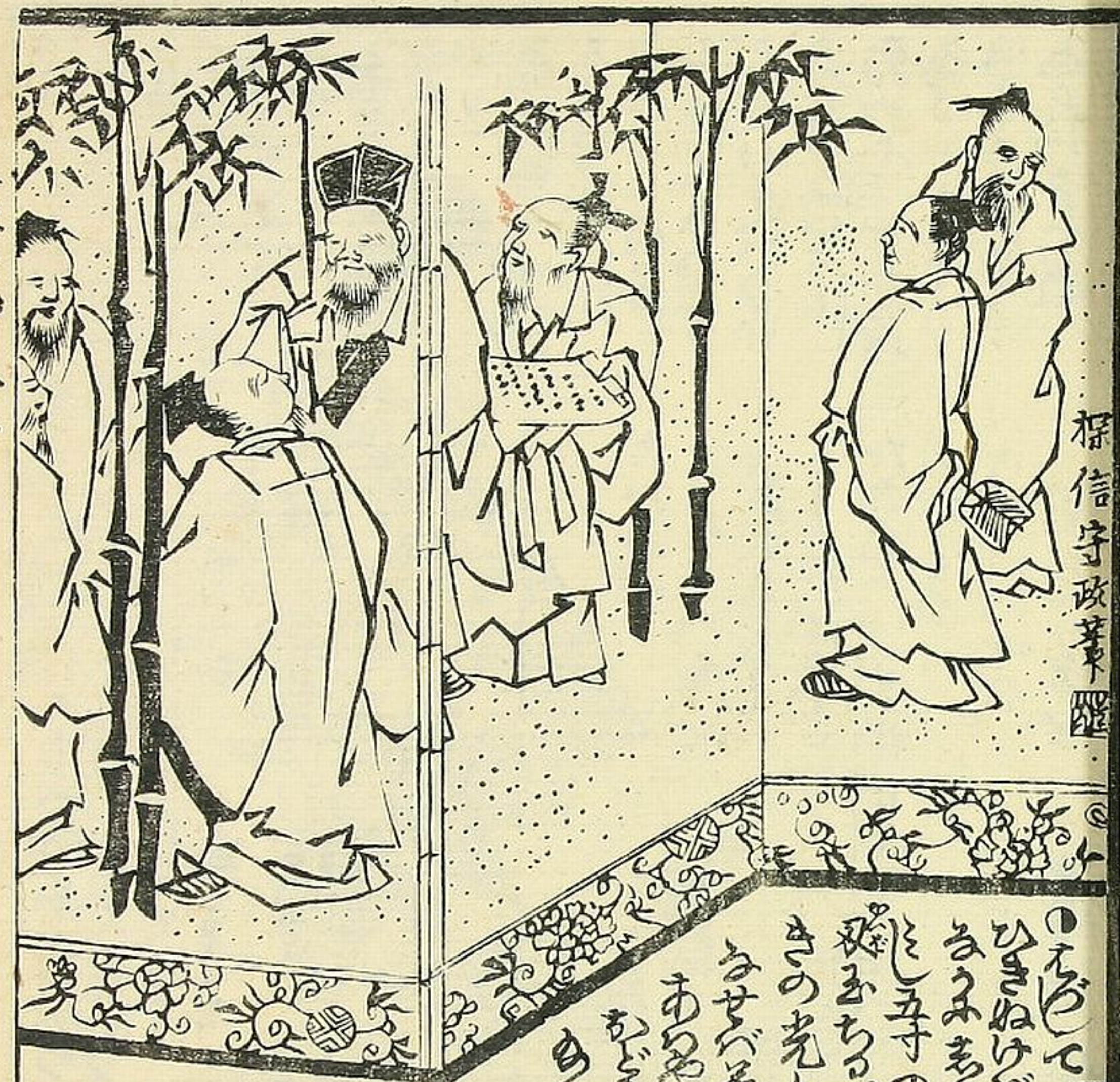
ひなまあふり
君直と
はらふ
せま
つづみ
さる

▲若君よりけのちたふ
よめそりのちたふ
あつこの世のちたふ
あつこの世のちたふ

△おまのちたふ

ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり

権信守政業



ひなまあふり
君直と
はらふ
せま
つづみ
さる

竹千代君

今これとあふ身の
まのりしてあふ
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり
ぬきぞい身のり

つきまらちやー(あまのつ)
るのひびき(あまのつ)
さき(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

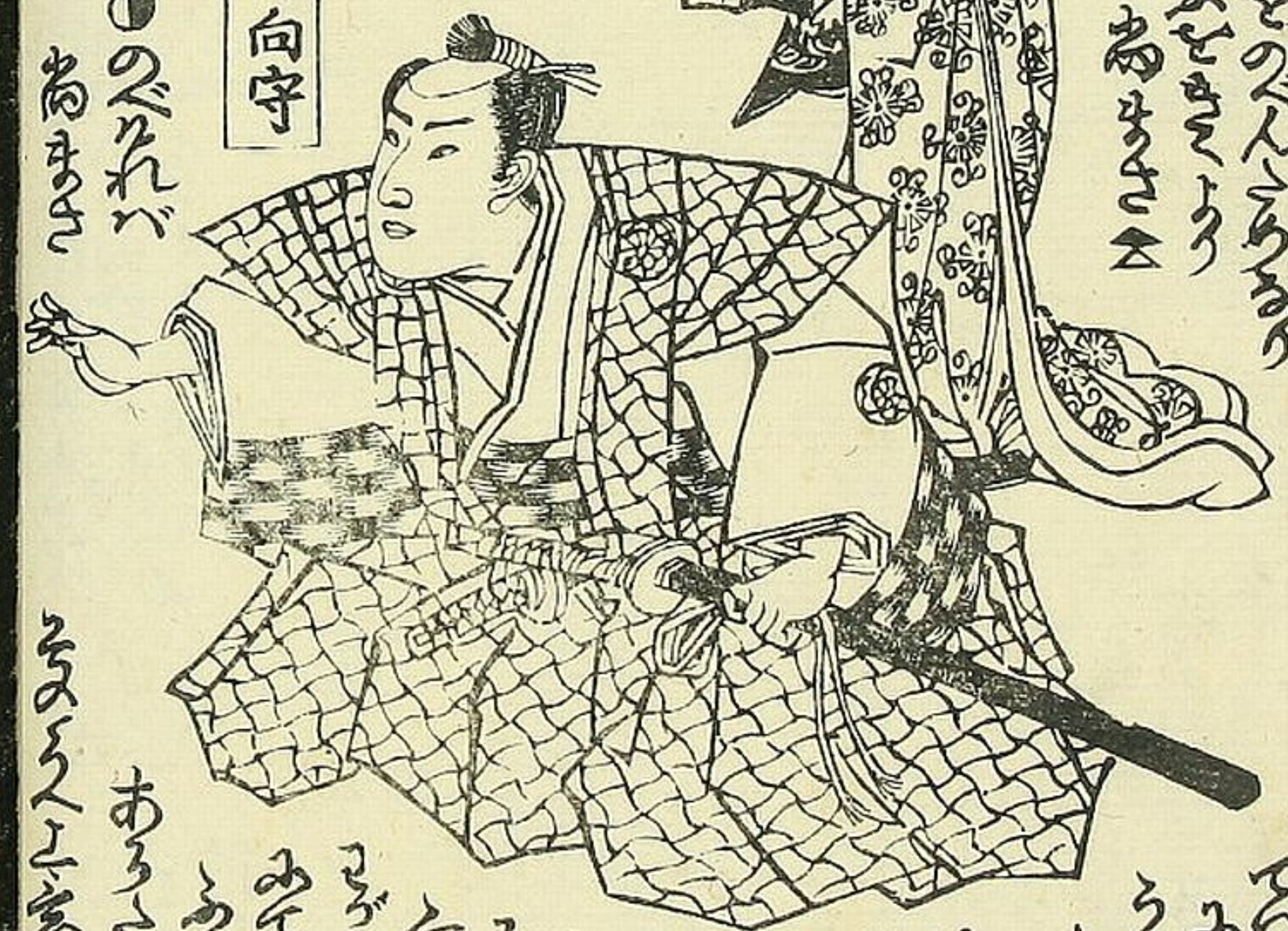


▲「竹千代君の
とまごのん(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

永井
日向
のち
あけより(あまのつ)
永井(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

▲むごん
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

永井日向守



△平後のこの

あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

永井信濃守尚政



あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

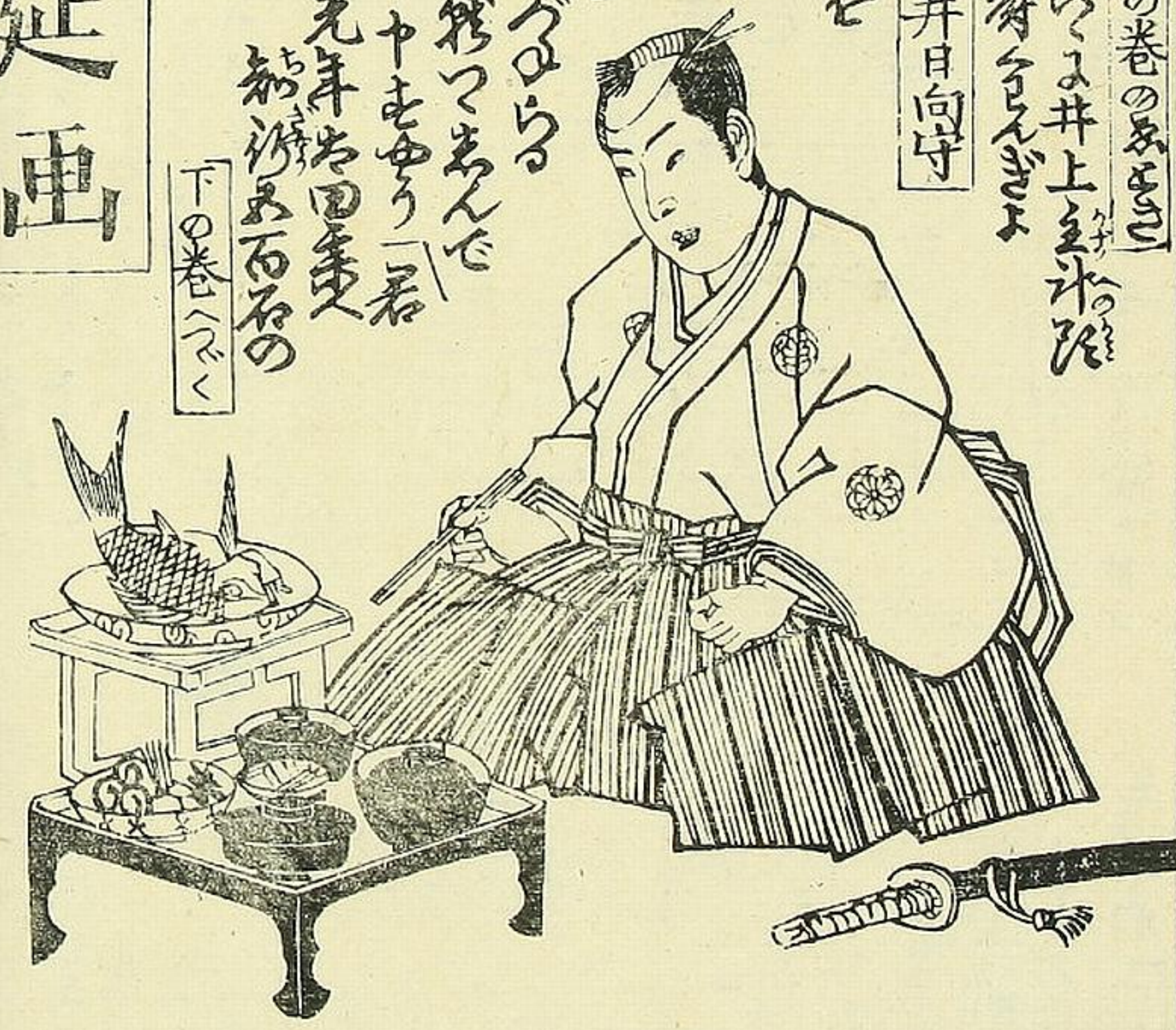
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)
あまのつ(あまのつ)

るきうう「三葉抄」
とを森川いふ
は著むたかこの
跡にさしむる
君へのさしむる
ぬきると申す
所をかゝらる
の玉千代梅の
世にもある
この重後いふ
所改のどた枝
をのぬらるべしと
らうとさるる一ふ
せんぶをさるるの
りうくふ身とあゝと
あどあゝぬきせらるる

さきうう下の巻のあき
○はさきううは井上主計
正徳の後裔をいふ
のまの 永井日向守
みく
四国ごうを
経ひこれに
奥の四指
るへめさ
はそその
肯とごうのら
正徳つあんて
中まかう一君
先年お国衆
結派あ石の
下の巻へく

應賀作周延画



明良二葉抄

初編ヨリ追々出版

朝鮮異聞 四冊 續切

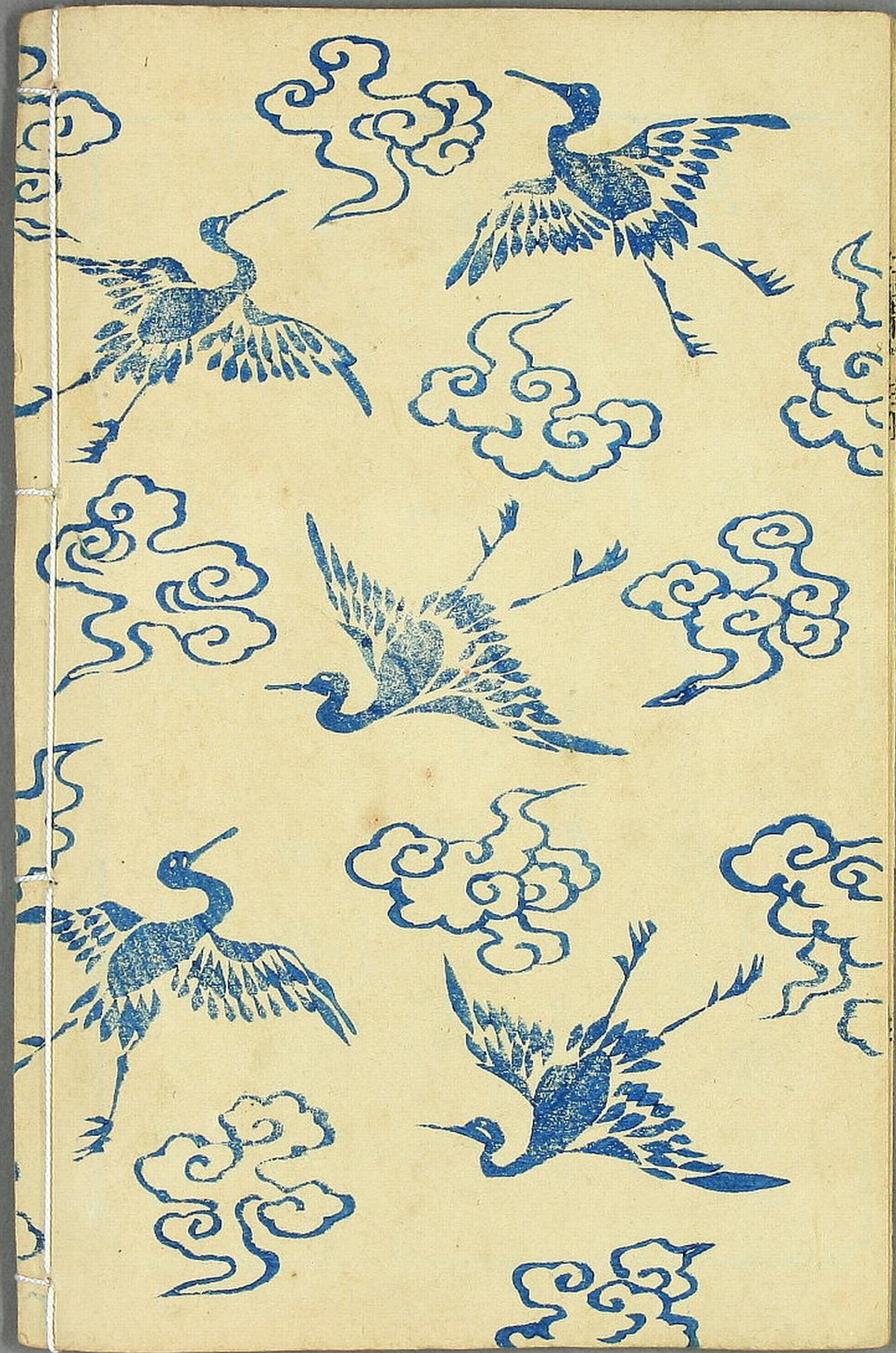
繪奉 一代 紀物 品々

上等色入 小本 品々

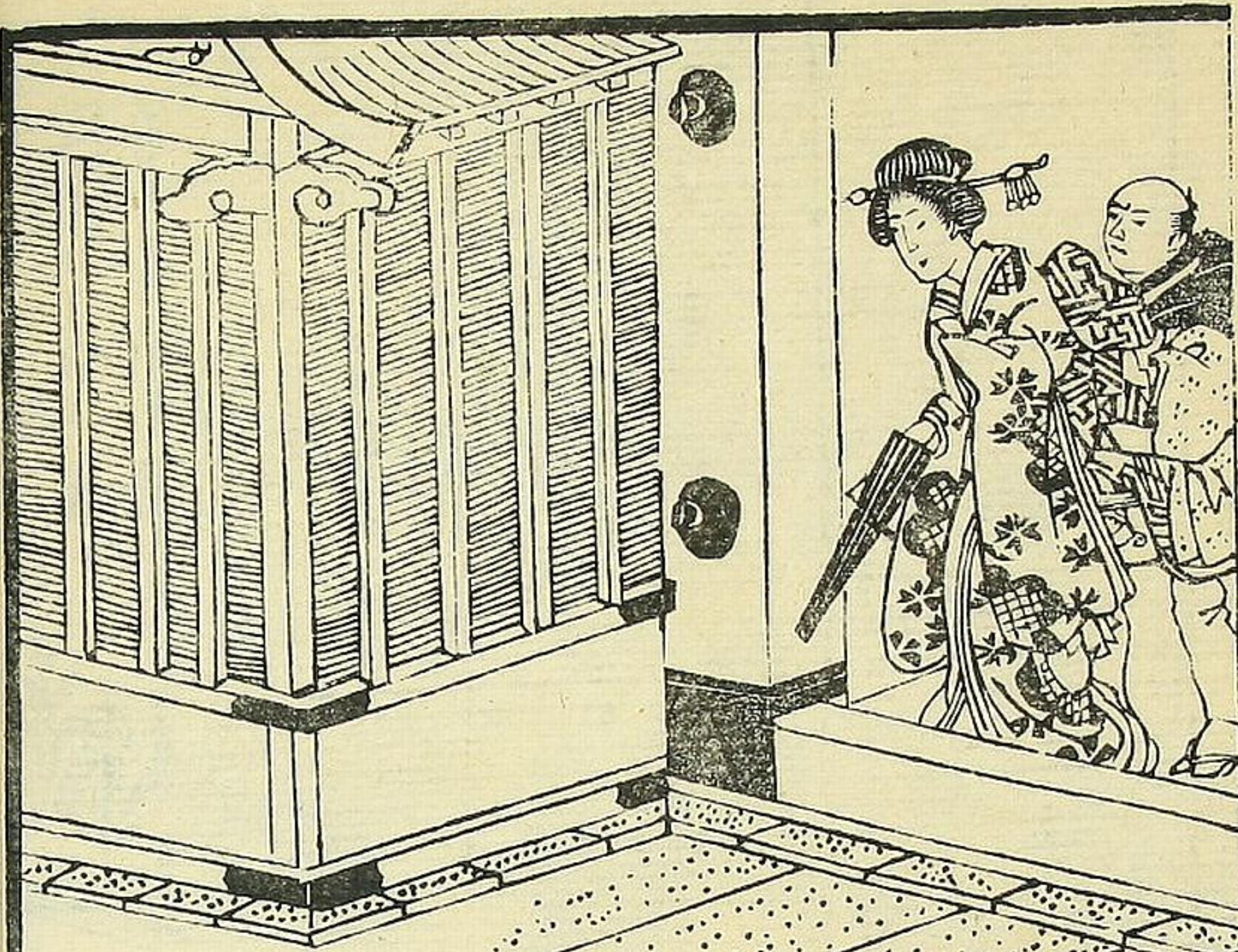
地本錦繪
東京日本橋区本銀町三丁目角

問屋 武川清吉

團扇







二世三郎

長

公若君の御出
 世にあらまは
 まるまゝのま
 せらるまゝ
 おま極の御出
 さうんあつて
 けおや火の
 けさうごま
 ぶあひちひの
 おかひ今
 うちほりま
 とうごま
 とうごま
 さえ方ひあせ
 一チ夜ワ宿下り
 者あおせひ
 公若君の御出
 世にあらまは
 まるまゝのま
 せらるまゝ
 おま極の御出
 さうんあつて
 けおや火の
 けさうごま
 ぶあひちひの
 おかひ今
 うちほりま
 とうごま
 とうごま
 さえ方ひあせ
 一チ夜ワ宿下り
 者あおせひ

せむしあつて
 まるまゝのま
 せらるまゝ
 おま極の御出
 さうんあつて
 けおや火の
 けさうごま
 ぶあひちひの
 おかひ今
 うちほりま
 とうごま
 とうごま
 さえ方ひあせ
 一チ夜ワ宿下り
 者あおせひ



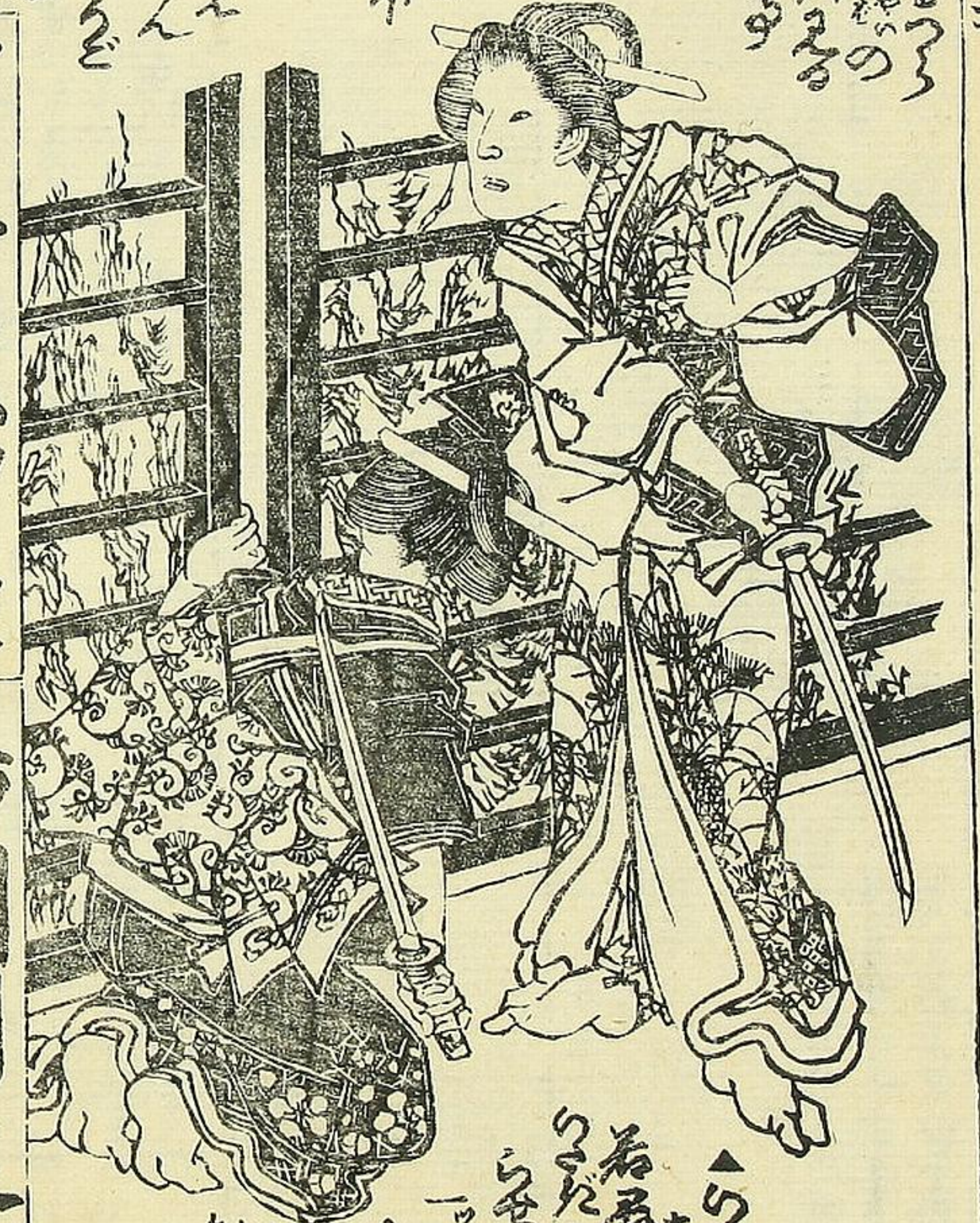
二入とあつて
 ひとまあつて
 おへるはま
 まつあつて
 者あおせひ

一入とあつて

二入とあつて

一入とあつて

つぎから...
 ぬき...
 不...
 よう...
 か...
 あ...
 う...
 の...
 わ...
 刀...
 み...
 へ...
 り...
 せ...
 と...
 う...
 と...
 と...
 と...



万亭應賀作揚洲周延画

ち...
 ら...
 一...
 八...
 教...
 乃...
 乃...

明良二葉州 初編より追々出版

朝鮮異聞 四冊續切

繪奉一代紀物 品々

上等色入小本品々

地本錦繪 東京日本橋区本銀町二百角

團扇 問屋 武川清吉

